

次回の勉強会の予定 5/27 日(金)、午前 10 時

子どもたちと共に生きものの飼育・観察から SDGS に到達したい!

次回のテキスト 虫捕る子だけが生き残る 養老武司他著 定員 8 名

4/19 日実施、文科省の全国学力テストに出てきた、イキモノたち!

飼育中のヤゴ

文科省 4/19 日実施の小 6 対象の全国学力テスト、小学 6 年生理科の問題の中で出てきた生き物に関連する問題は、以下の通りです。

ナナホシテントウの育ち方、モンシロチョウ、ショウリョウバッタ、シオカラトンボ、ゲンゴロウがそれぞれ食べる、幼虫と成虫時代の食べ物。カブト虫の卵から成虫までの主な食べ物の変遷。ゲンゴロウを除いて、当館では、上記の生き物の飼育と観察に関わってきました。

もし、これらの生き物の成長の過程を、資料集で獲得しなければならぬとすると、勉強は暗記に陥る可能性があります。これらの生き物をリアルに飼育したとすると、資料集以上のものを学ぶに違いありません。

当館で只今飼育しているヤゴは、メダカを食べ、赤ミミズを食べ、蚊の幼虫を食べています。蚊の幼虫をポープラのいる水槽からスポイトで吸い上げてヤゴにそれを与える場面は、「食った食った」と子どもたちの感動のシーンです。食物連鎖は、資料集以上に多様であることを子どもたちは、学んでいきます。

当館では、今年度は、テントウムシの集まるというキンレンカを植えました。イチゴの苗を買い植えましたが、ミツバチ不足で完全受粉しません。いびつなイチゴが育っています。その後、筆で受粉させました。形のよいイチゴをと考え、昆虫の集まるというアザミもこの春にまきました。

ミツバチの減少のニュースは、ここ数年あまり報道されなくなりました。あらゆる実のなるものは、昆虫か風に受粉を依存しています。ミツバチの減少は、消毒などによる影響とされ大きな問題となっています。

子ども新聞によると、イチゴ農家は、蜂に代わって、きれいなハエを代用するそうです。

当館では、日常の中に飼育・観察を導入し、学習の醍醐味を作りたいと考えております。

生の生き物たちが発信する情報は、無限です。どんな発見があるかはかり知れません。そして、その受け止めは、子ども達の感性に依存しています。生きものの発する情報を感性全開、受け止める練習をしたい。

🧩 パズルで考える力を!

🐛 生きものの飼育と観察から地球の生態系を守る力を!

SDGS に連なる理系育てたい!



飼育中のカタツムリ



テッセンのアブラムシを
食べるカタツムリ

虫と花の同好会 幹事

朝日学習館 塾長 梶原賢治



川口市末広 2-5-5 ☎ 048-224-0349